

陶 智子（富山女子短大）

《目的》近世女性礼法を確立した水嶋ト也ならびに、その礼法の内容の研究をすすめるにあたって、まず水嶋流の伝授系路をあきらかにすることを前回の発表までに行ってきた。これまでの調査では水嶋流には水嶋ト也から高弟の伊藤甚右衛門幸氏へと続く伝授系路と森平格へと続く伝授系路の二系統が存在することがあきらかとなった。しかし、水嶋ト也の子孫についてはその存在があきらかではなかった。そこで、久留米藩に関係する水嶋ト也とその子孫についても調査を行いあきらかにすることを目的とした。

《結果》久留米市立図書館の調査により水嶋ト也の子孫は代々久留米藩に仕えていたことが判明した。水嶋家の系譜は久留米藩の『御家中略系譜卷之二十九』（久留米市立図書館所蔵）に記載されていた。水嶋ト也を初代と考え、以後大正時代の和之までの系譜があきらかとなった。明治以降のものは、筆跡が他の箇所と異なることから、後に補われたものと考えられる。『御家中略系譜卷之二十九』は、八代目には「ト也之」とあり「之」の下が記されていないなど、完全なものとは言えないが、太田亮『姓氏家系大辞典』（昭和38年、角川書店）に記載されている水嶋家の系譜とは異なる点があり、これによってのみ知られることろもあり重要と考えられる。また、この他に明治41年6月に発行された、坂本辰之助著『有馬義源公附録久留米教育小史』（東京郵信通信社）にも水嶋家に関する記述が見られた。これらの調査から、久留米藩における水嶋ト也の子孫の藩士としての活動は礼法家としてのものではないことも判明した。